

『Society 5.0』と『最適化社会』

我が国の科学技術の振興に関する「第5期科学技術基本計画（2016-2020年度）」が進行している。ゴールは「Society 5.0（超スマート社会）の実現」である。「超スマート社会」とは「サイバー空間とフィジカル空間が高度に融合し、必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会」と定義されている。なんと、これはオムロン(株)の創業者であり弊立石科学技術振興財団の設立者である、立石一真がほぼ半世紀前の1970年に、2005-2025年に到来を予測していた『最適化社会』そのものではないか。「個人と社会」「人と自然」「人と機械」が最適なバランスを保ちながら融合する「最適化社会」。「超スマート」のような無機質の表現でなく「はんなり」して受け入れやすいし、もっと「人」に視点を置いた「社会」の実現ではあるが。



この「Society 5.0」を実現するために、産業側が目指す姿として「Connected Industries」が本年3月経済産業省より発表された。これはドイツの「Industrie 4.0」の日本版ともいふべきもので、「様々な『つながり』により新たな付加価値が創出される産業社会」と定義し、その大きな柱として「人と機械・システムが対立するのではなく、協調する新しいデジタル社会の実現」を掲げている。ところで、弊財団の定款第3条「目的」に「エレクトロニクス及び情報工学の分野で人間と機械の調和を促進するための研究に関する活動を支援し、もって技術革新と人間重視の両面から真に最適な社会環境の実現に寄与することを目的とする」とある。なんと1990年の財団設立時に、既に今日発生するであろう課題を予見し、その解決策の創出を研究者の皆様へ託していたのである。

さあ「人と機械の調和」を推進する科学・技術をどんどん創出し「最適化社会」を実現しましょう。

（「最適化社会」ご興味を持たれたら立石義雄弊財団理事長の著書「最適化社会へ」、あるいはオムロン(株)のHPの「オムロンについて」を参照されたい）。

技術研究組合 NMEMS 技術研究機構 理事長
一般財団法人 マイクロマシンセンター MNOIC 所長 今 仲 行 一 (理事)